

現代短歌分類辭典

第四百卷

津 端 亨 編纂

津 端 亨 編 纂

現代短歌分類辞典

第 百 四 卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辭典

104

昭和五十九年八月十日発行

定価二、〇〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 亨

東京都台東区鳥越一―十一―八

〒111 発行所 現代短歌分類辭典刊行所

代表 津 端 亨

振替 東京 三一九三一―四番
電話 〇三(八五二)九八六九番

目

次

(第一〇四卷)

	歌数	頁数		歌数	頁数
いまも	一七九	一	いまよのすけ(今世之介)	一	三六
いまもーいま	二	一六	いまよ	一	三六
いまもーかーも	二一	一六	今世びと	一	三六
いまもーなほ	八三	一八	いまより	四〇	三六
いまもーはた	二	二五	いまよりーすこし	一	四〇
いまもーまた	一	二五	いまよりーぞ	三	四〇
いまもーや	一	二五	いまよりーの	一	四〇
いまや	一〇三	二五	いまよりーは	一六	四〇
いまーやーいま	一	二四	いまよりーも	三	四二
いまやう	三	二四	伊万里	一	四二
いまーややに	一	三四	伊万里町	一	四二
いまーゆ	七	三五	いまーれーて	一	四二
いまゆきさき	一	三五	今井	一	四三
いまよ(今世)	三	三五	今井公平	一	四三

今井の浜
 今井浜
 今井ホテル
 今 衛
 いまーを
 いまーをーいま
 いまーをーしも
 意味
 齋(いみ)
 忌 み
 忌 明
 いみいみーし
 いみーきよまはり
 いみきはーるる
 齋 樟
 いみこーし
 いみーし

一 一 一 一 一 一 二 二 一 四 一 二 一 一 三 三
 六 六 六 六 六 六 六 六 六 六 五 五 四 四 四 四

いみじ
 いみじう
 いみじからーずーや
 いみじからーむ
 いみじかり
 いみじかりーけむ
 いみじかりーけり
 いみじかりーけれ
 いみじかる
 いみじかるーなり
 いみじかるーべし
 いみすき
 いみじき
 いみじく
 いみじくーじ
 いみじくーて
 いみじくーも

一 一 一 二 八 一 一 一 二 三 九 三 一 二 一 一 四 八
 八 八 八 六 三 二 二 二 六 六 六 六 七 七 七 七

いみじけれ

いみじち

いみじ—すくは

いみじ—も—よ

いみじーやーも

いみじーよ

射水川

意味付

いみする

忌竹

いーみたれーて

いみづき—ゆか—む

いみづくる

射水野

齊村

いみーで

いみと
(齊扉)

いみには（齋庭）

いみーの日

忌日

いみ火(斎火)

いみむろ

いみ杜

異名

いみわれし

移民

移民船

異民族

移民団

移民百年

移民法

移民村

射
—
む

忌む

いーむれーつつ	八	一〇五
いーむれーて	二八	一〇五
いーむれーゆく	二	一〇八
いーむれーゐーて	一	一〇八
いめ(斎め)	一	一〇八
いめ(夢)	一六	一〇八
いーめぐり	一	一〇〇
いーめぐりーたまふ	一	一〇〇
いーめぐりーつつ	一	一〇〇
いーめぐりーもゆる	一	一〇〇
いーめぐる	一	一一一
イメージ	三	一一一
いめびと(夢人)	一〇	一一一
いも(芋・薯)	九七	一一二
芋穴	三	一八九
いもあぶら	一	一八九
薯飴	一	一八九

甘藷飴	三	一八九
飯森峠	一	一九〇
いもうと(妹)	四三九	一九〇
いもうとーおとうと	一	二二七
いもせ(妹背)	一三	二二七
いもたち(妹達)	一	二二八
いもうとちようう	一	二二八
いもうとどち	六	二二九
いもうとーとみ	一	二二九
妹夫婦	一	二二九
妹夫妻	一	二二九
妹八千代	一	二三〇
妹	六	二三〇
いもうとじま	一	二三〇
妹達	一	二三〇
いもうとーらしき	一	二三一
芋うり	一	二三一

いもかがみ	一	二三一
芋 粥	二五	二三一
芋がら	六	二三九
いもーがり	五	二三四
いもーがりーゆけーば	二	二三五
芋 菊	一	二三五
甘藷切干	三	二三五
芋くき	三	二三五
芋 屑	二	二三六
芋喰和尚	一	二三六
芋 車	四	二三六
芋菓子	一	二三七
いも子 (妹子)	一	二三七
薯 粉	一	二三七
芋 坂	二	二三七
いもじ (鑄師)	六	二三七
いもじほづま	一	二三八

芋 汁	三	二三八
妹 背	二〇	二三九
芋焼酎	二	二四〇
いもせがは	一	二四一
芋ぜめ	一	二四一
妹背山	二	二四一
いもたち (妹達)	一	二四一
芋 種	一	二四一
芋 俵	一	二四二
芋団子	二	二四二
稲熱病田	一	二四二
いもち (稲熱病)	一	二四二
稲熱病予防	一	二四二
いもつくり	一	二四三
芋坪草庵	一	二四三
芋積車	二	二四三
いもづる	一三	二四三

芋の子	一	二五三
鑄物	九	二五二
いーもーねらーえーめーや	一	二五二
いーもーねーず	一	二五二
いもね(熟睡)	一	二五二
芋根	一	二五二
芋鍋	一	二五一
諸苗	七	二五一
芋盗り	一	二五一
妹ら	七	二五〇
妹弟子	一	二五〇
いもどち(妹どち)	一	二五〇
いもーとーせ	三	二四九
いもどころ	一	二四九
芋床	一	二四九
いもと(妹)	四八	二四五
いもでんがく(芋田楽)	二	二四四

芋屋	一	二六二
芋餅	二	二六一
芋飯	一	二六一
いもむし(遊び)	一	二六一
芋蟲	八	二六〇
いも堀わざ	一	二六〇
芋諸堀り	六	二六〇
諸弁当	一	二五九
薯ぱんつくり	一	二五九
甘諸畑	二三	二五七
芋畑	二三	二五五
甘諸配給	二	二五五
芋葉	一	二五五
鑄物場	五	二五四
鑄物師	三	二五四
いもーのーこら	一	二五四
鑄物工場	七	二五三

芋焼きをぢ	一	二六二
妹山背山	一	二六三
いもら(妹等)	八	二六二
いもり(斎杜)	二	二六三
飯森峠	一	二六三
いもりら	一	二六三
芋井	一	二六四
いもる(潔斎)	一	二六四
芋井村	一	二六四
芋和尚	一	二六四
衣紋	三	二六四
衣紋かけ	一	二六五
いや	七九八	二六五
いや(祖谷)	一	三三一
いや(嫌)	三八	三三二
いやーいや	三	三三五
いやいや(語幹)	五	三三六

いやいや書き	一	三三六
いやうな	一	三三六
いやうなる	三	三三六
いやうに	一二	三三七
いやうーの	五	三三八
いやーおう	一	三三八
いやおうなく	一	三三八
いやおうなし	二	三三九
いやーがーうへーに	八	三三九
いやーかすか	一	三三九
いやがへに	一	三四〇
いやがらーず	一	三四〇
いやがらせーるーき	一	三四〇
いやがらーれーし	一	三四〇
いやがりーし	一	三四〇
いやがる	六	三四一
医 薬	一	三四一

いやさか(弥栄)

いや—さかえ

いやさか—と

いやさか—に

いやさか—の

いや—さかゆ

いや—さきに

いやさ—する

いやさ—まく

いやさ—む

いや—さや

いや—さや—だかに

いや—さやに

いや—さら

いや—さらさらに

いや—さらに

いやさ—る

二

二

一

一

四

一

一

一

一

七

四

一

一六

二

一

三七

一

三四一

三四一

三四二

三四二

三四二

三四二

三四二

三四三

三四三

三四三

三四三

三四四

三四四

三四六

三四六

三四六

三四九

いやさ—るる

いやさ—れ

いやさ—れ—がたき

いやさ—れ—し

いやさ—れ—て

いやさ—れ—ぬ

いやさ—ん

いやし(卑し) (形容詞)

いやし(動詞)

いやしい

いやしから—ざる

いやしから—なくに

いやしから—ぬ

いやしかり—けり

いやしかる

いやしかる—べし

いやしき

一

一

一

一

一

一

三

五

一

一

二

一

三

一

二

一

五二

三五〇

三五〇

三五〇

三五〇

三五〇

三五〇

三五〇

三五一

三五二

三五二

三五二

三五二

三五二

三五二

三五二

三五三

三五三

いやしく

一七

三五八

いやしくーて

二

三五九

いやしくーは

一

三六〇

いやしくも

七

三六〇

いやしけき

一

三六〇

いやしけーど

一

三六一

いやしげに

一

三六一

いやしけれーども

一

三六一

いやーしこに

一

三六一

いやしさ

一二

三六一

いやしーし

一

三六二

いやしーたまはらーん

一

三六二

いやしーたまへ

一

三六三

いやしーたもはれ

一

三六三

いやしーたる

一

三六三

いやしーて

一

三六三

いやしーと

六

三六三

いやしーとーし

二

三六四

いやしーとーぞ

一

三六四

いやしーとーて

一

三六四

いやしーとーは

一

三六四

いやしーとーもーいやし

一

三六五

いやしみ

三

三六五

いやしみーし

一

三六五

いやしむ

三

三六五

いやしまーず

一

三六六

いやしまーれ

一

三六六

いやしーまるらーす

一

三六六

いやしみ

一

三六六

いやしみーにーつつ

一

三六六

いやしむ

四

三六六

いやしむーなかれ

一

三六六

いやしめ

三

三六六

いやしめーて

三

三六六

い	や	し	め	ー	ど	い	や	し	め	ー	ぬ	い	や	し	ー	も	い	や	す	い	や	す	ー	が	に	い	や	す	ー	と	い	や	し	ー	と	ふ	い	や	す	ー	べ	き	い	や	す	ー	べ	く	い	や	せ	い	や	せ	ー	し	い	や	だ	い	や	ー	た	か	に	い	や	ー	た	か	ー	の	い	や	ー	つ	ぎ	い	や	ー	つ	ぎ	に	い	や	つ	き	ば	や	に
合	計																																																																																									

四〇七六首

一	三	一	一	二	八	一	二	二	一	一	五	一	一八	二	一	一
三七三	三七三	三七三	三七三	三七二	三七二	三七一	三七一	三七一	三七一	三七一	三七〇	三七〇	三六八	三六八	三六八	三六八

【いまーも】名詞・助詞

まぼろしの君わがまへに今もあり立ちてあれども語り給はず⑬（支那事変銃後）三浦　いくよ

まむかひの繁山木立伐られしをいまも惜めりわが家あらぬに①　平　福　百　穂

迷ひきて今もすがらむ人のため燃えつつける弥陀のともし灯③　清　水　乙　女

万葉の歌によまれし筑紫綿今もあるにや綿の広告⑥　四　賀　光　子

曼珠沙華咲く野の日暮れは何かなしに狐が出るとおもふ大人の今も④（新万葉集三）木下利玄

曼茶羅川のあさき瀬音の今もなほ澄みたる里か古くまづしく②　松　本　滋　代

みいくさのしるべといまも天飛ぶや弓矢八幡大菩薩の旛②　西　郷　春　子

みかは路の野山は海はわがために今もゆたけし歌のふるさと　依　田　秋　圃

御饌都神豊受の宮ををろがみし夜の灯はいまも垂^{たりは}願^{ねが}いろすや⑦　吉　井　勇

短きちやんちやんを着て兄弟が庭にあそびし今も眼に見ゆ②　中　沢　庭　柯

みすずかる信濃の吾が家いや古りてかの大時計今もうごくか③　今　井　邦　子

いまーも

いまーも

御立しし御庭芝山今もなほ手いれよくして真青に詰みぬ（小笹生）

陸奥の秋田の駅に降り立ちて霧深かりき今も忘れず①

水汲むとその朝々を通ひけむ真間の井の水今も湛ふる②

水まつりいまも行ふ水際あり垂幣しろししろし月夜に見れば③

み扉は今もとぎされて屋根の上の斑の雪の目ゆかれがたし①

みどり葉をぬきいでてさく赤き花のつぎつぎさきていまもさきをり①

南山手の通りを紅毛少女行けるが歩みかろらに今も行くらむか②（地懷以後橋田東声）

み墓べの高木の極ゆ珠垂れしそのからす瓜いまも眼にあり③

身はなにの象徴なりや焼夷弾の余燼のなかに今も立ちつつ②

み仏を刻みつつ僧が飲みしとふ清水のしたたり今も清しく④（角川文庫）

みほとけは五体失せにし心木もて千とせの末のいまもすがしき②

みみづから書き示されし塾則は今も残れりその草の家①

岡 麓

印 田 巨 鳥

高 橋 希 人

生 方 たつゑ

宗 不 早

三 井 甲 之

岡 本 大 無

川 浪 磐 根

山 田 百 合 子

吉 野 秀 雄

藤 原 東 川

宮城野の田びと談らくわが夢はガダルカナルに今も戦ふ(石)

小杉放庵

身を変へしこちもせねば行きし日も帰らふ今も一つなるかな⑨

尾上柴舟

身を曲げて寝る癖を母は嘆かひき少年の時も今も変らず⑩

千代国一

むかし来てあはれと思ひしこの寺の撫で仏いまま撫でて人をり(新萬葉集八)対井滄人

むかしせしそこより今も聞えつつ心したしき雨垂の音

稻森宗太郎

むかし見し浅沢沼の花あやめいまま咲くらむ葉がくれにして⑪

明治天皇

昔見て今もこもらふ齒朶の葉の暗がりふかく釣瓶を吊るも(切矢)

島木赤彦

昔わが実をひろひにしふるさとのかしの大木はいまものこれり⑫

昭憲皇太后

麦畑の中の小さき一つ家に兄夫婦住みていまも子なしに⑬

山下秀之助

むすべば手にこちよし清き水の今もわきいづるわが産湯の井(山と水と)

佐佐木信綱

むらさきのむさしの原のおもかげを今もしのばす隅田川かも⑭

今井邦子

紫ばみし詰襟の服長身の若き浜さん今も眼にある⑮

高橋希人

いまーも